

先日、文化の森に、美濃加茂市、富加町の住民20人が集まりました。もともとこの地域の「文化遺産」に関心のある人たちで、この日は、文化の森が所蔵する出土品の取り扱い方や調査法を学びました(加茂の文化遺産探訪事業の一環)。

まず参加者が手にしたのは、美濃加茂周辺で発見された石器類(縄文時代ほか)です。爪の先ほどの大きさですが、ナイフのような鋭い刃があること、当時の人々によってそれが作り出されていることが分かりました。それらの大きさや重さ、材質などを確認して、台帳に記録していききました。また、古墳時代の須恵器すえきの汚れを落とすと、鮮やかな焼き物の色がよみがえりました。

参加者は、博物館が収蔵する「モノ」に出会って驚き、そこで感じた思いなどを互いに語り合うことで「交流」が自然と深められていったようです。